愛は強く、ショコラは甘い。

ショコラのなかに餅。電子レンジで温めると盛り上がるので「中岳ショコラ」。いまや人気の看板商品だ。中村浩さんには高校以来ずっと付き合っている女性がいた。彼女の生家は菓子店だ。兄が跡を継いで頑張っていたが、不慮の事故で急逝する。悲嘆にくれる両親を見かねた彼女は、「私が店を引き継ぐ」と決めた。その決意を重く受け止めたのは、ほかでもない恋人の浩さんだった。勤務していた大手輸送機器メーカーを退職し、「おれも手伝うよ」。夫婦となり、ずぶの素人として菓子作りの初歩からの二人三脚が始まった。愛は強く、ショコラは甘い。

菓心なかむら　中村 浩

ひとくち食べて目を丸くする感動を。

かつて内牧一帯に燃え広がった大火により、父が経営していた菓子店も全焼した。東京でパティシエの修業中だった木下一生さんが「一から始めるので阿蘇へ帰ってきてくれ」という父の要望に従い、同じくパティシエの兄と協同で始めたのは、当時まだ珍しかった本格的洋菓子店だった。無我夢中で軌道に乗せてきた。兄の恭助さんから見た弟評はといえば、「いい意味で頑固な職人、こうと決めたら一本道」。阿蘇のすぐれた産物を生かして、意欲的に実験作に挑む。職人としてつねに自分に課しているのは、「ひとくち食べた人が目を丸くする感動」である。

パティスリー・ド・アソ　MIYUKI　木下一生

虹を見上げると、みんな笑顔が輝きますよね。

「にじいろ」という店名はいわば希望のシンボルだ。もともと福岡県八女市出身の牧久美子さんだが、小さいころから阿蘇の景色が大好きだった。二十五歳のとき、縁あって内牧のスイーツの店にアルバイトに。「ほんとは五年で帰るつもりだったんですけれど」、生涯の伴侶とめぐり合い、夢だった自分の店を開くに至った。子育てと主婦とお菓子作りと、一日が四十時間ぐらいほしい忙しさだ。阿蘇産の素材の力を活用してオリジナルをいくつも開発。子どもも安心して食べられる優しいスイーツ、ていねいなスイーツをこれからも作りつづけていく。

菓子工房にじいろ　牧 久美子

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然 zen
Aso City

あるがまま、という貴さ。
人と自然が共作する阿蘇。

- 阿蘇の自然を舞台にした人びとの営みこそ大きな力を持っている、という考えで2013年秋にスタートした「火の国阿蘇の恵みのブランド−然」。活動の広報として、お一人お一人のポスターを制作しています。
- 「然の人びと」は現在も取材進行中です。輝いている阿蘇人をどしどしご紹介ください。自薦他薦を問いません。

然についてのお問い合わせは、
阿蘇市「草・観・然」活性化事業推進会議事務局
（阿蘇市観光課）
TEL. 0967-22-3174 ／ FAX. 0967-22-4566

aso-zen.com

阿蘇 平成28年10月号
public relations magazine No.141

今月の主な内容・CONTENTS

④ 地域の今を動画に。WebTV アソ開局10周年
⑧ まちの話題
⑫ 市役所からのお知らせ
⑯ 10月4日㊋から市政報告会がスタート
⑰ 人権作文　阿蘇中学校1年 植田桃歌さん
⑱ 暮らしの情報
⑳ 阿蘇医療センター通信 No.12
㉑ 図書館へ行こう！
㉒ くらしカレンダー＆お慶び寄付
㉔ 復興祭 フォトリポート
㉖ ASO田園空間博物館通信 No.67
㉘ 第11回阿蘇市民チャリティーゴルフ大会
㉙ 地産地消クッキング 里芋とカボチャのひこずり
さわやかフレッシュマン 平田 祐里江さん(熊本YMCA黒川保育園)
㉚ 阿蘇ユネスコジオパーク探訪

今月号の表紙

第3回あそYOSAKOI復幸まつりが9月11日、一の宮地区の二つの会場で開かれ、九州各県から44チーム約1000人が参加しました。

阿蘇市で唯一のよさこいチーム「ASO☆KOI華流伝羅(佐藤博文代表)」が企画したもので、鮮やかな衣装に身を包んだ踊り子たちが、地震からの早期復興を祈り、見事な演舞を披露しました。

市役所からのお知らせ

●秋の複合健診(住民健診)を受けましょう！ [P12・13]
●インフルエンザの予防接種をうけて流行に備えましょう![P14]
●食生活改善推進員、新規会員を募集！ [P15]

暮らしの情報

▷阿蘇市戦没者追悼式
▷熊本県立農業大学校平成29年度新規就農支援研修生募集
▷特設行政相談所
▷第12回阿蘇市民スポーツ大会
▷阿蘇市文化協会復興祭
▷第11回阿蘇市こども芸術祭
▷熊本地震復興支援黒坂黒太郎(正文)コカリナコンサート
▷熊本矯正展
▷県立小国支援学校第14回すぎのこまつり
▷大阿蘇ジャンボリー２０１６秋開催

夢を追いかける青少年の声を届けます ―

夢を追いかけて

ぼくの将来の夢は、お父さんのような料理人になることです。

理由は、お父さんの仕事を見ていて、料理するところもかっこいいし、お父さんの料理を食べて、お客さんが笑顔になっているところを見て、ぼくも、みんなを料理でよろこばせたいと思ったからです。

そのために、毎日家の料理の手伝いをして、立派な料理人になりたいと思います。

園田　悠太

そのだ ゆうた／阿蘇小学校・6年

chase a dream No.32　Yuta Sonoda